

食の黄金文化・奥州料理コンクール 表彰レセプション&試食会を開催します

◎問い合わせ・申込先
同実行委員会事務局（本庁
元気戦略室内・内線 463）

7回目となる今回のテーマは「りんごと米と牛肉を使ったおもてなし料理～郷土料理や伝統料理にアレンジを加えて～」。全国各地から98人の応募があり、書類審査を通過した10人が最終審査に臨みます。次代の料理人によるナンバーワン決定戦！ その決定の瞬間に立ち会ってみませんか？ また、レセプション（試食会）では、最終審査に選ばれた10作品を味わえるほか、審査員を務める有名シェフのオリジナルメニューも楽しめます。

- 日時 31年2月16日(日) ▶表彰式：午後5時～、
▶レセプション（試食会）：午後6時～
- 場所 プラザイン水沢
- 会費 5,000円（グラスワイン1杯、ソフトドリンク込み）
- 定員 100人 ※要申し込み、先着順
- 受付期間 31年1月4日(金)～2月1日(日)
- 審査員 熊谷喜八氏(KIHACHI創業者)、伊藤勝康氏(ロレオールシェフ)、奥田政行氏(アルケッチャーノオーナーシェフ)、石川勉氏(トラットリアシチリアーナ・ドンチッチョオーナーシェフ)、上野祐市氏(プラザイン水沢総料理長)



市職員を募集します（追加募集）

◎問い合わせ・申込先
本庁総務課人事係（内線 438、
〒023-8501 ※住所記載不要）

市は、平成31年4月1日に採用する職員を募集します。あなたの手掛けた仕事が地域を支える基盤になります。魅力あふれる奥州を共に作り上げましょう。

■募集職種・人数（年齢要件）

- ①一般事務・3人程度（平成3年4月2日以降生まれ）
- ②一般事務「社会人枠」・1人程度（昭和61年4月2日以降、平成3年4月1日以前生まれ）
- ③一般事務「身体障がい者対象」・1人程度（身体障害者手帳の交付を受けており、昭和61年4月2日以降生まれ）
- ④保育教諭「保育士・幼稚園教諭」・1人程度（昭和63年4月2日以降生まれ）
- ⑤土木技師・1人程度（昭和58年4月2日以降生まれ）
- ⑥保健師・2人程度（昭和58年4月2日以降生まれ）

※職種ごとの詳細な受験資格要件は、市役所総合案内および本庁総務課、各総合支所総務企画課で配布する受験案内（市ホームページにも掲載）をご確認ください。

■試験日時

31年1月27日(日)午前9時～

■試験会場

江刺総合支所

■申込期限

31年1月9日(日)（郵送の場合は1月9日(日)までの消印有効）

■申込方法

市役所総合案内および本庁総務課、各総合支所総務企画課で配布する受験申込書（市ホームページからダウンロード可）に必要事項を記入して提出。郵送で提出する場合は、封筒に「職員採用試験受験申込」と朱書きし、372円分の郵便切手を同封の上、特定記録郵便、簡易書留郵便または一般書留郵便で送付



はやし屋台に登場してみませんか

◎問い合わせ
日高火防祭実行委員会事務局（本庁
商業観光課観光物産係内・内線 272）

毎年4月29日に開催され、春の奥州に一大絵巻を繰り広げる日高火防祭。町組ごとに飾られたはやし屋台が三味線や太鼓にあわせて街を練り歩きます。そのはやし屋台に登場し、三味線や太鼓を演奏してみませんか。

■はやし屋台の特徴

300有余年の歴史を持つ日高火防祭は、古趣豊かな音色と豪華絢爛なはやし屋台が特徴です。昔は素朴なものでしたが、明治以降、町家が栄えるにつれて各町が競い合った結果、今日では金や赤など色とりどりの美しい屋台となりました。

屋台には三味線、小太鼓、横笛を乗せ、横町組は「一声くずし」、大町組は「祇園ばやし」など、各町組それぞれの音色を奏でます。この格調高い音色は県の無形民俗文化財に指定されています。

日高火防祭では、はやし屋台を舞台に見立て「登場」と表現しています。

■登場者の対象（男女不問）

- ①三味線＝中学生から成人
- ②大太鼓＝小学4年生から6年生
- ③小太鼓＝小学生

※どちらの地域の人でも登場できます。募集人数や登場料は町組により異なりますので、詳しくは各町組にお問い合わせください

■各町組の問い合わせ・申込先

町組名	連絡先	電話番号
横町組	天下堂（佐々木）	㊴ 2426
袋町組	鈴木	㊴ 7628
駅前三町組	佐藤	㊴ 4003
川口町組	マルミ理容店（及川）	㊴ 7435
柳町組	石川氷店（石川）	㊴ 2442
城内組	佐藤	㊴ 4231
立町組	理容おいかわ（及川）	㊴ 5260
吉小路組	ナカノメ薬局（中目）	㊴ 2624
大町組	ベビーショップ（高橋）	㊴ 2563



登場者の感想（岩谷堂小学校4年 小澤 歩果さん）

私は今年の登場で3回目です。今回着た着物は母の友人のお母さんが約70年前に着ていたものです。母の友人の家は大船渡にあり、津波で流されてしまいました。この着物も流されましたが、がれきの中から見つけ、染め直しクリーニングをしたものです。母の友人に「お祭りにこの着物を着てみない？」と言われ、私はすぐにOKの返事をしました。被災した人の思いを、私はこの伝統ある日高火防祭で勇気と笑顔とともに届けたいと思いました。お祭り当日の夜、大船渡から2人で見に来てくれました。友人のお母さんは涙ながらに見てくれたそうです。どんな思いで見てくれたのかと思うと胸が熱くなります。このような形でお祭りを盛り上げ、復興に貢献できたのはとても素晴らしいことだと私は思いました。これからも伝統あるこのお祭りを大切にしていきたいと思っています。

